

雨水はすぐに流れ出してしまうのに、 水量が安定している谷もある

図6-9は水質が比較的安定している美松坂の碁石谷(標高2098m)に設置した水位計の記録と雨量計の記録を合わせてみたものです。水位計は谷が立山有料道路を横断するために付けられた直径1.5m程のパイプの入り口付近に設置しました(図6-10)。

水位計の記録から、この谷は雨が降ると水位が一気に1m程度まで上がり、1日～2日程度でまたもとの水位に戻ってしまうことがわかりました。このことから集水域に降った雨水はせいぜい2日ほどで流れ去ってしまうようです。水質調査の日が、たまたま、雨水が流れ去って平常水位に戻った後だったため、見かけ上、水質が安定していたのかもしれませんが。

この谷の特徴は、晴れた日が続いて他の谷が水涸れしても、この谷にはいつも安定して水が流れていることで、集水域内に大量の地下水が蓄えられているようです。集水域に降った雨がすぐに流れ出してしまうのに、地下水が十分に蓄えられているというのはたいへん不思議な話です。

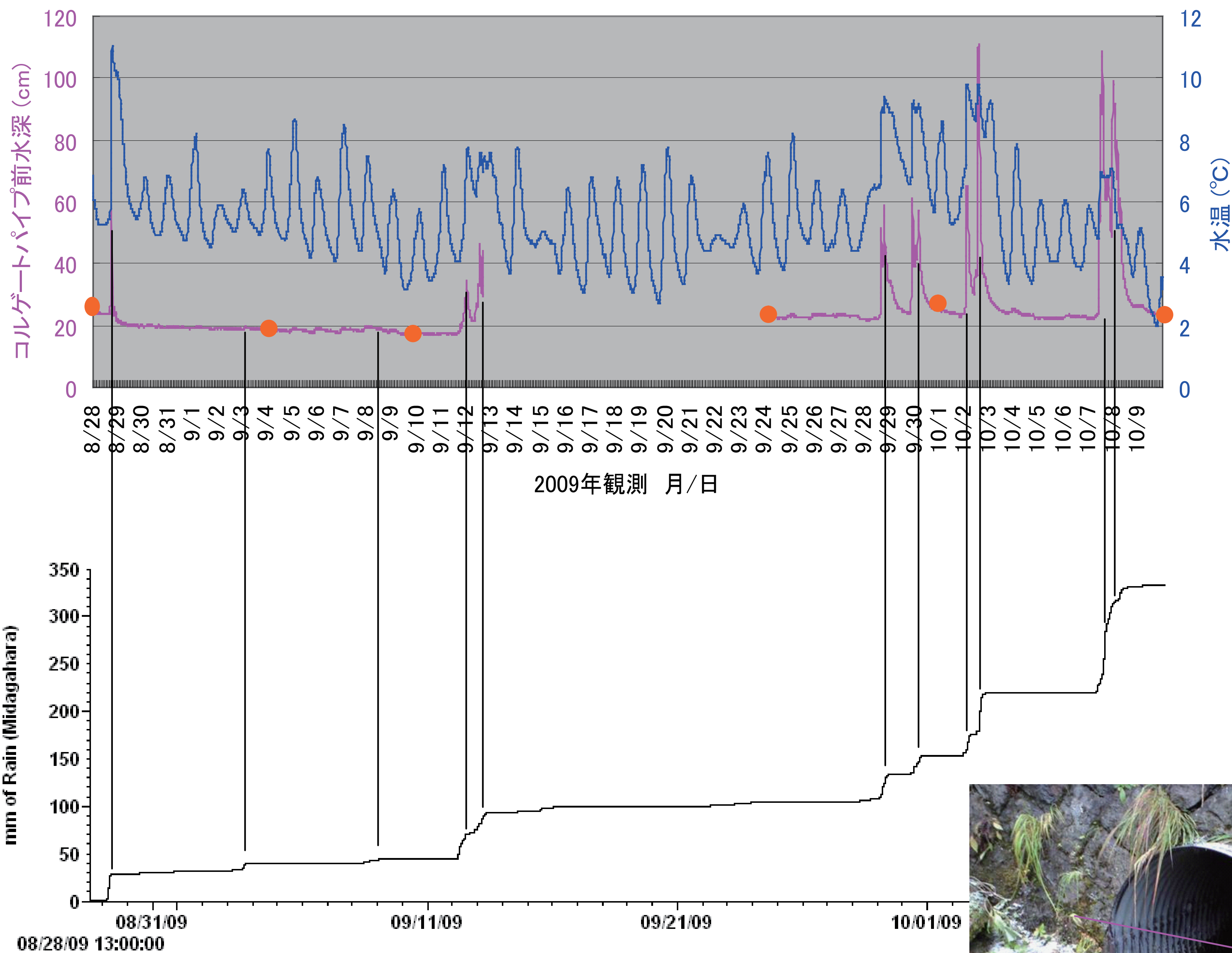


図6-9 碁石谷の水位変動(上)と弥陀ヶ原における降水量(下)との関係
●は水質調査日



図6-10 碁石谷の水位計設置場所